

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

おひやくしょうさんと、  
タネ



ぶん

文: Edward Hughes

え

絵: M. Maillot; Lazarus

かいさくしゃ

改作者: E. Frischbutter; Sarah S.

ほんやくしゃ

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ

出版社: Bible for Children

[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

BFC

PO Box 3

Winnipeg, MB R3C 2G1

Canada

©2007 Bible for Children, Inc.

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。



<sup>ひ</sup>  
ある日のこと、イエスさまは、みずうみ  
のそばで、おしえられていました。

<sup>ひと</sup>  
たくさんの方が、イエスさまのおはな  
<sup>き</sup>  
しを聞くために、あつまってきま

<sup>ひと</sup> <sup>ひと</sup> <sup>ひと</sup> <sup>ひと</sup>  
したよ。人、人、人、人でいっ  
ぱい。さて、イエスさまは、  
どうされたでしょうか。



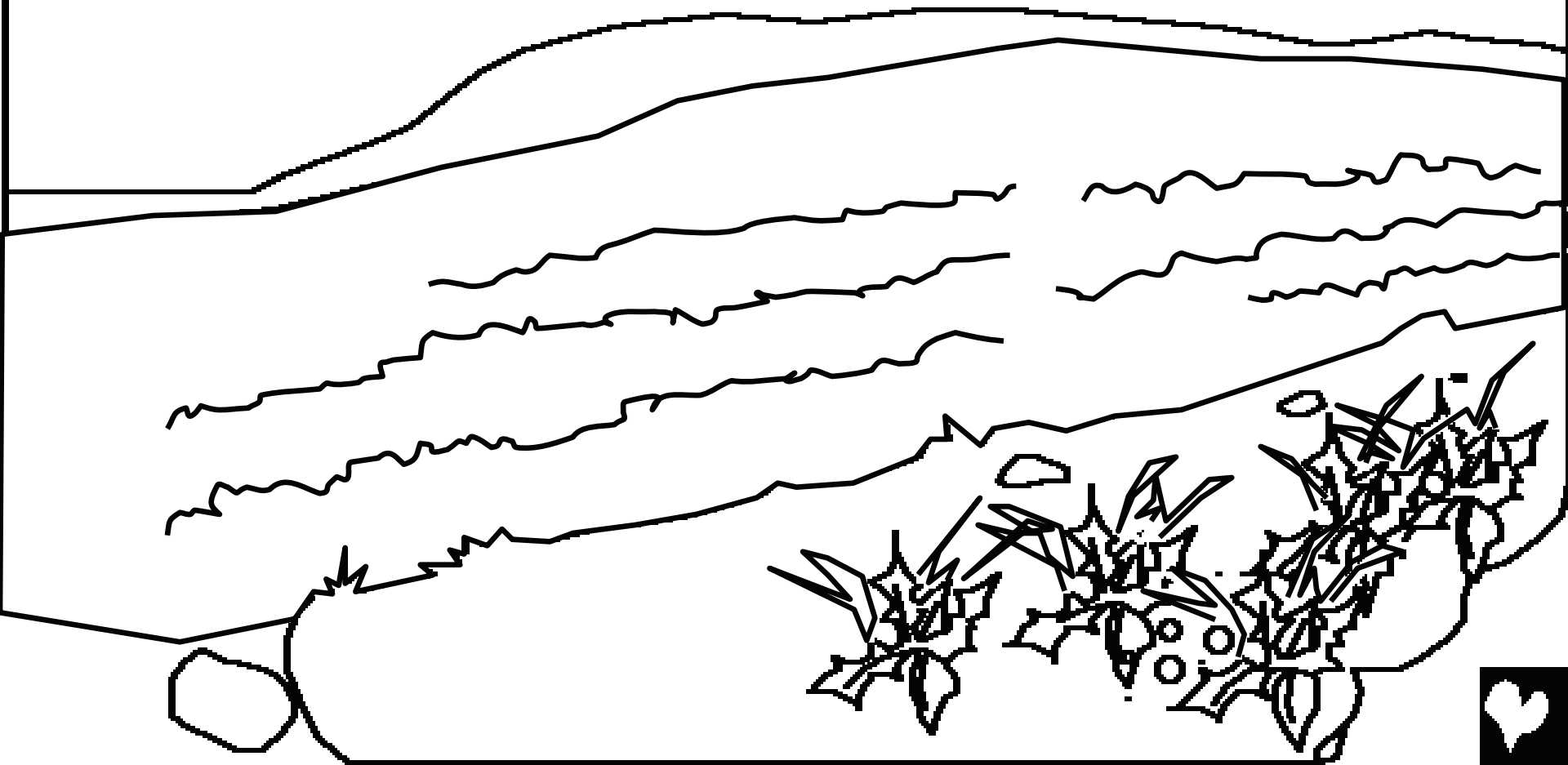
あれっ、ちかくにボートが<sup>み</sup>見えますね。イエスさまは、  
さっそくそのボートの<sup>なか</sup>中に。さあ、これでイエスさまは、  
みんなの<sup>み</sup>かおを見ることができますね。そして、  
<sup>ひとびと</sup>人々もまた、イエスさまの<sup>み</sup>かおを見ることが  
できますよ。



イエスさまは、たとえばなしを、はじめられました。たとえばな  
しって？イエスさまが、神さまについておしえられるとき、  
よくわかるように、ふだん見たり聞いたりするでき  
ごとを使われました。そのおはなしのこと  
です。



「おひやくしょうさんが、畑<sup>はたけ</sup>のあちこちに、タネをばらばらとまきました。」  
イエスさまのおはなしは、まるで絵<sup>え</sup>を見ているようです。



ひとびと

人々は、おひやくしょうさんが、いっしょうけんめいはたらいているすが  
たが見えるよう。なぜって、みんなは、そんなおひゃ  
くしょうさんを、よく見かけますからね。



いくつかのタネは、ころころころころ・・・。  
あれあれ、どこに行くのだろう。みんなが、  
ある みち  
歩く道にころがっていきますね。ところが、ヒュ  
とり

ーと、とつぜん鳥たちがまいおりにて・・・。  
そのとたん、がぶり！タネをまる  
のみしてしまいました。





また、いくつかのタネは、

いし

石がごろごろしているところに、おちました。

め

おお

すぐに、芽をだし、大きくなっていきますよ。

でも、なんだか、ひよろひよろしてよわそう。

ひ

あついお日さまがあたって、たおれそうですね。

なぜって、それらのタネは、

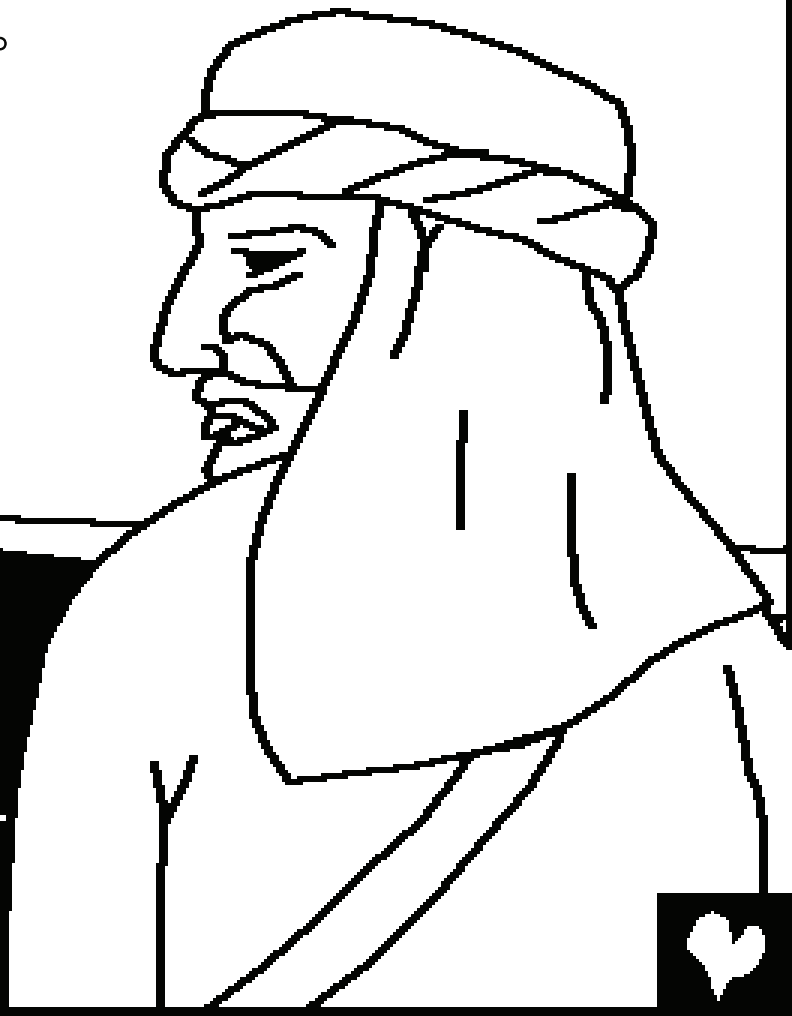
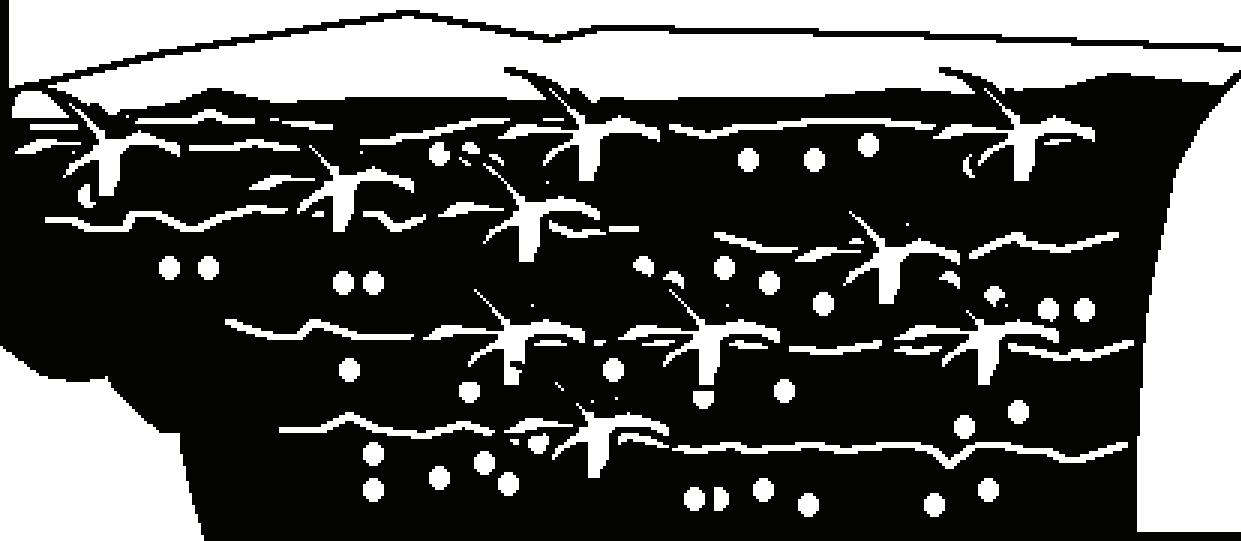
つち

ね

土があさくて、根をしっかりと、

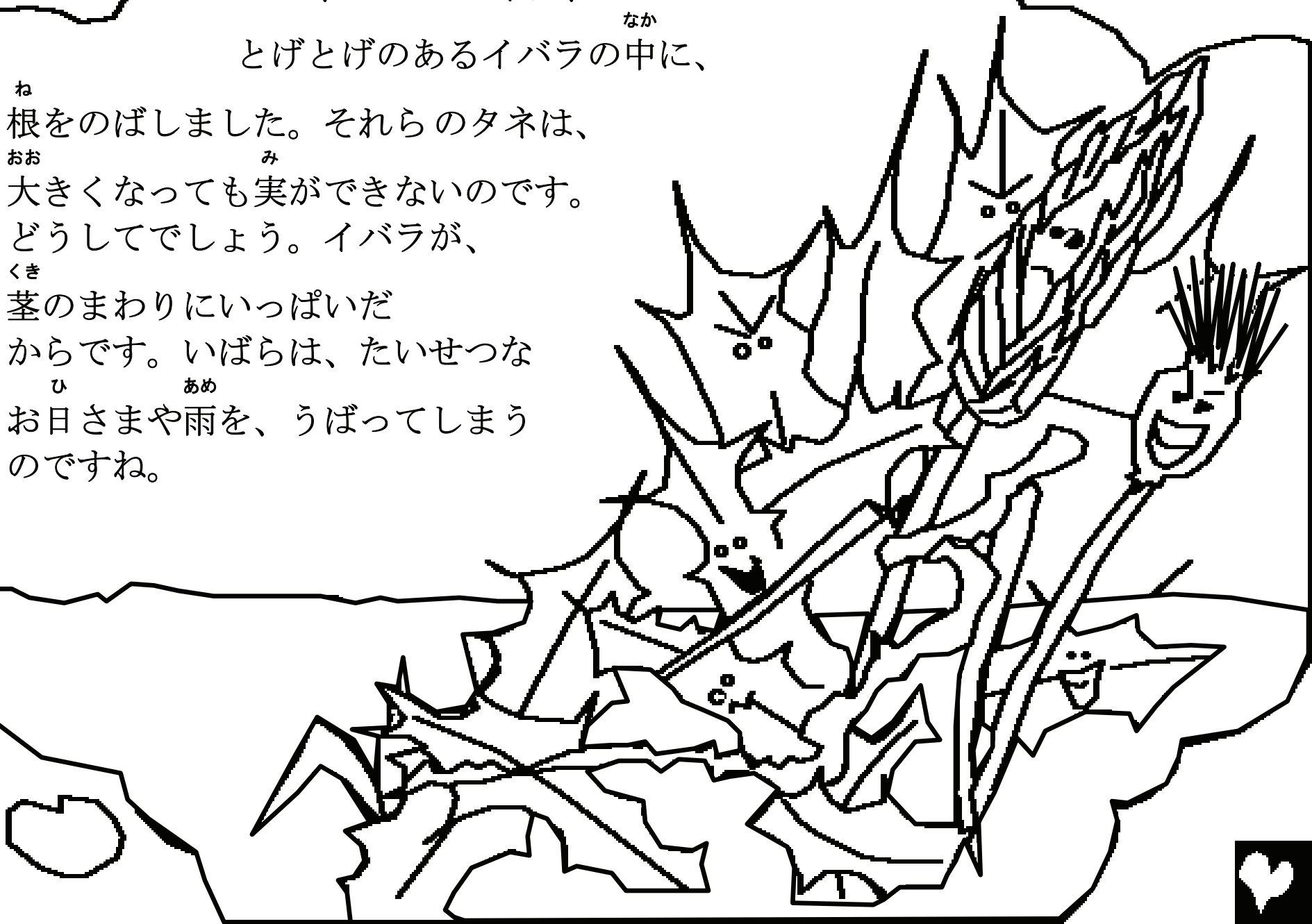
つち なか

土の中にのぼすことができなかつたからです。



また、ほかのタネは、  
とげとげのあるイバラの中に、

ね  
根をのばしました。それらのタネは、  
おお  
大きくなっても実ができません。  
どうしてでしょう。イバラが、  
くき  
茎のまわりにいっぱいだ  
からです。いばらは、たいせつな  
ひ  
お日さまや雨を、うばってしまう  
あめ  
のですね。



さて、のこりのタネは、どこにおちたのでしょうか。

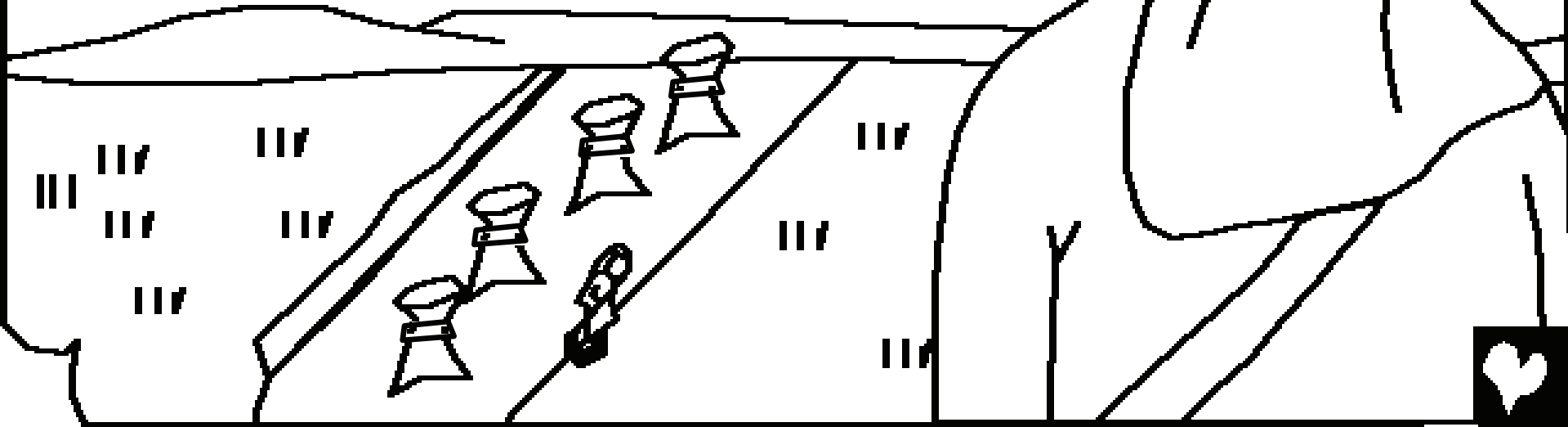
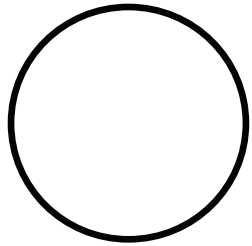
とてもふわふわしたやわらかい土の上に、おちました。何日かたつと、

タネは、芽を出し、大きく大きくそだっていきました。

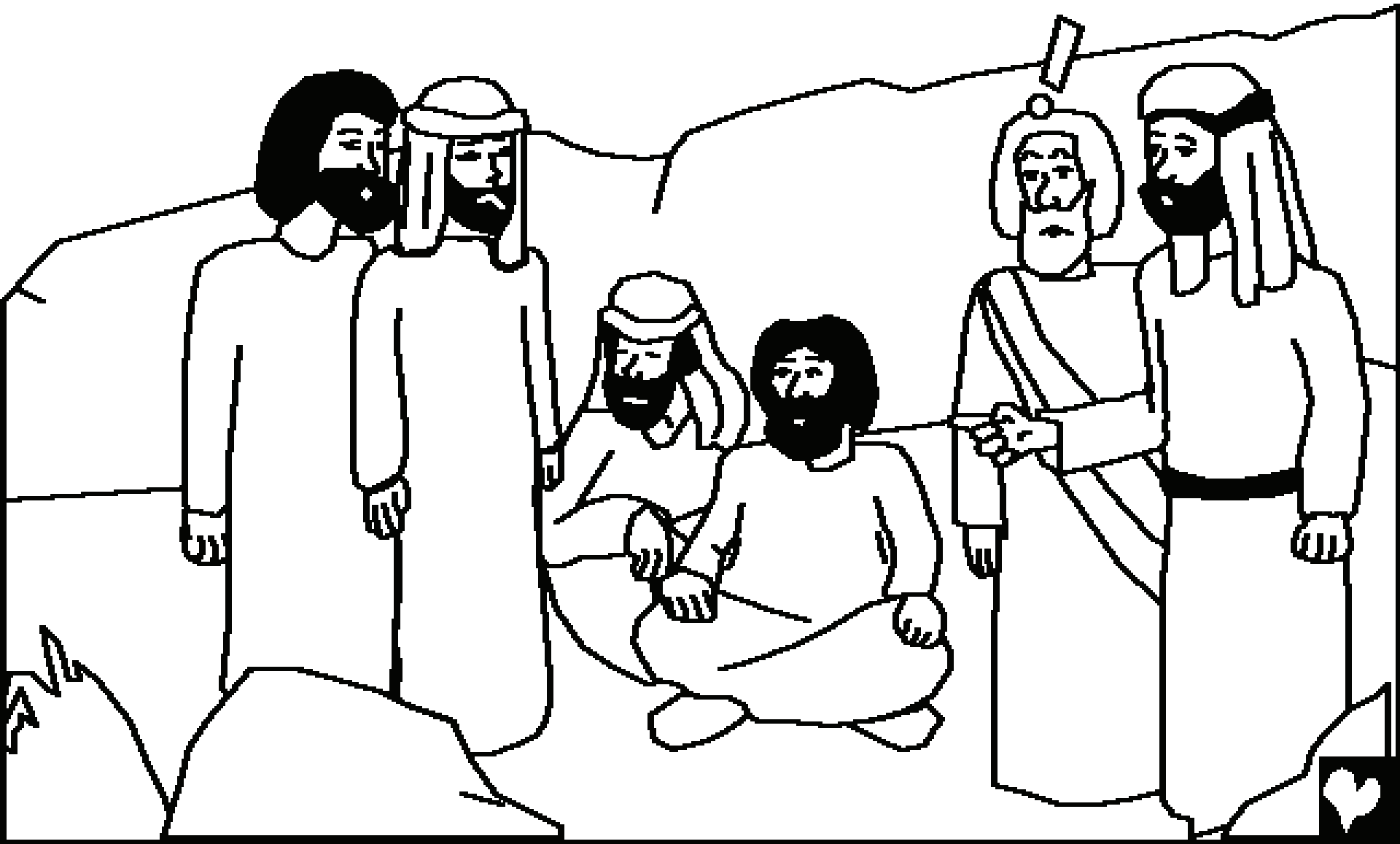
それらには、あたらしい実がいっぱいですよ。

おひやくしょうさんは、にこにこがお！

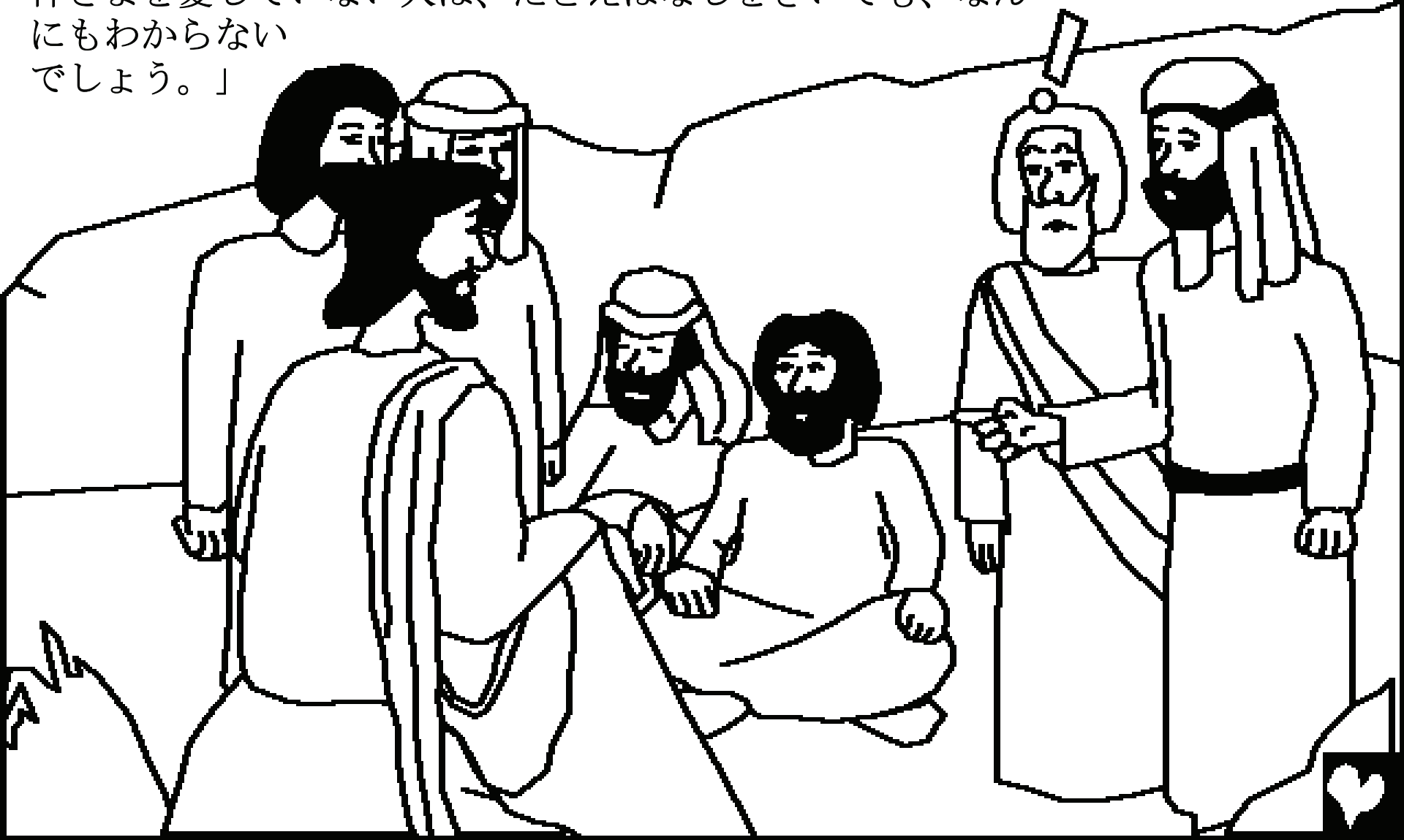
きっと、うれしかったでしょうね。



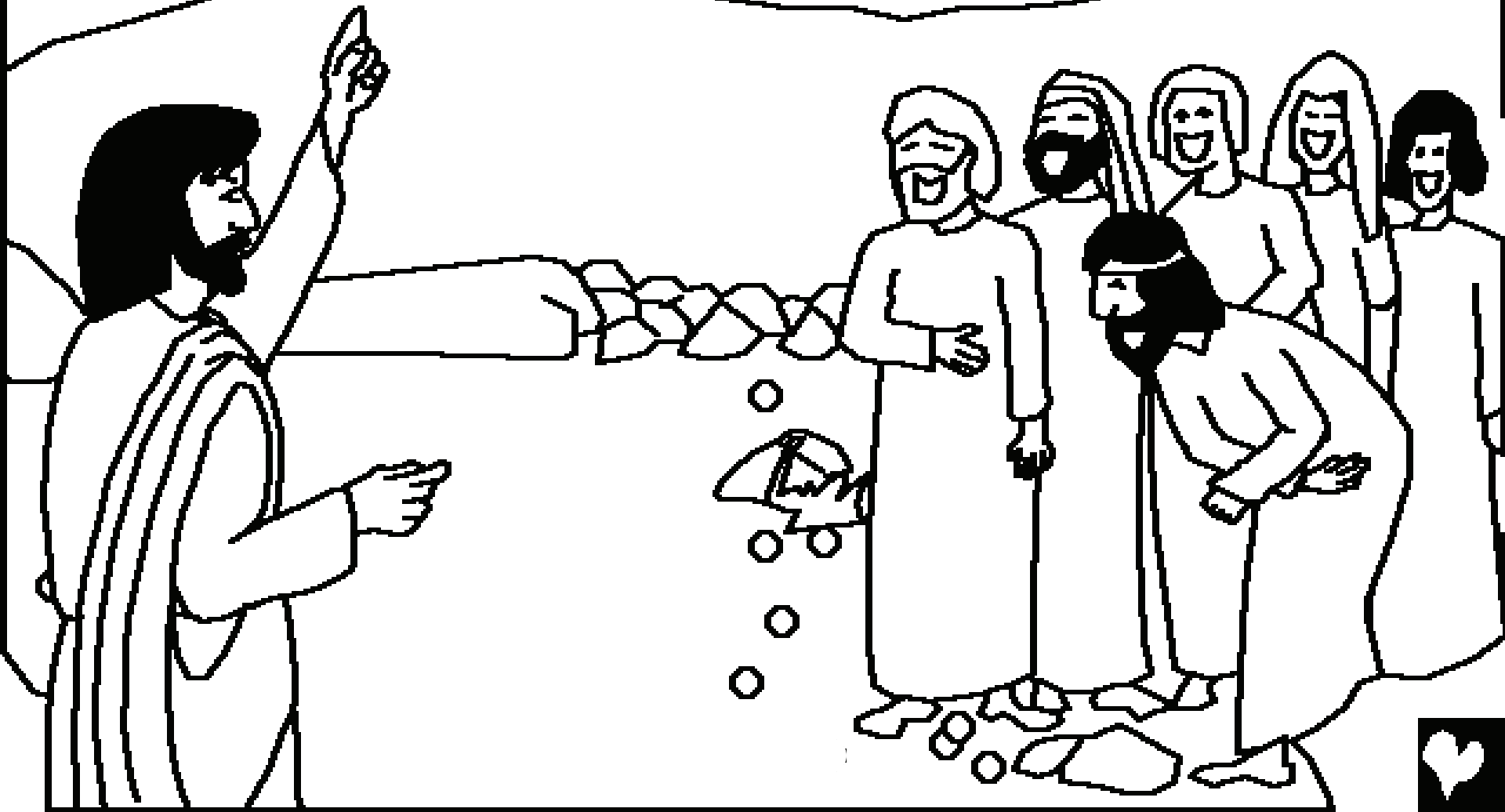
このおはなしが、おしまいになったとき、でしたちは、  
イエスさまのところにやってきて、たずねました。「イエスさま、  
どうしてたとえはなしをつかって、おしえていらっしゃるのですか。」



イエスさまは、<sup>い</sup>言<sup>かみ</sup>われ<sup>かみ</sup>まし<sup>かみ</sup>た。 「<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>さま<sup>かみ</sup>を<sup>かみ</sup>ほん<sup>かみ</sup>とう<sup>かみ</sup>に<sup>かみ</sup>愛<sup>かみ</sup>して<sup>かみ</sup>いる<sup>かみ</sup>人<sup>かみ</sup>は、<sup>かみ</sup>た<sup>かみ</sup>と<sup>かみ</sup>え<sup>かみ</sup>ば  
<sup>かみ</sup>なし<sup>かみ</sup>を<sup>かみ</sup>き<sup>かみ</sup>くと、<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>さま<sup>かみ</sup>の<sup>かみ</sup>こ<sup>かみ</sup>と<sup>かみ</sup>が、<sup>かみ</sup>も<sup>かみ</sup>っ<sup>かみ</sup>と<sup>かみ</sup>も<sup>かみ</sup>っ<sup>かみ</sup>と<sup>かみ</sup>わ<sup>かみ</sup>か<sup>かみ</sup>る<sup>かみ</sup>よ<sup>かみ</sup>う<sup>かみ</sup>に<sup>かみ</sup>な<sup>かみ</sup>り<sup>かみ</sup>ま<sup>かみ</sup>す<sup>かみ</sup>よ。 <sup>かみ</sup>で<sup>かみ</sup>も、  
<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>さま<sup>かみ</sup>を<sup>かみ</sup>愛<sup>かみ</sup>して<sup>かみ</sup>い<sup>かみ</sup>ない<sup>かみ</sup>人<sup>かみ</sup>は、<sup>かみ</sup>た<sup>かみ</sup>と<sup>かみ</sup>え<sup>かみ</sup>ば<sup>かみ</sup>なし<sup>かみ</sup>を<sup>かみ</sup>き<sup>かみ</sup>い<sup>かみ</sup>て<sup>かみ</sup>も、<sup>かみ</sup>なん<sup>かみ</sup>  
<sup>かみ</sup>に<sup>かみ</sup>も<sup>かみ</sup>わ<sup>かみ</sup>か<sup>かみ</sup>ら<sup>かみ</sup>な<sup>かみ</sup>い<sup>かみ</sup>  
<sup>かみ</sup>で<sup>かみ</sup>し<sup>かみ</sup>ょう。」



い  
こう言われてから、イエスさまは、  
このたとえはなしが、どういういみか、  
はなしていただきました。「タネは、神さまのこ<sup>かみ</sup>とばです。」



ひと ある

人が歩くみちにおちたタネは、

かみ

神さまのことばをきいているけれど、どういらいみか、

ひと

ひと

わからない人のこと。サタンは、その人たちのところにや

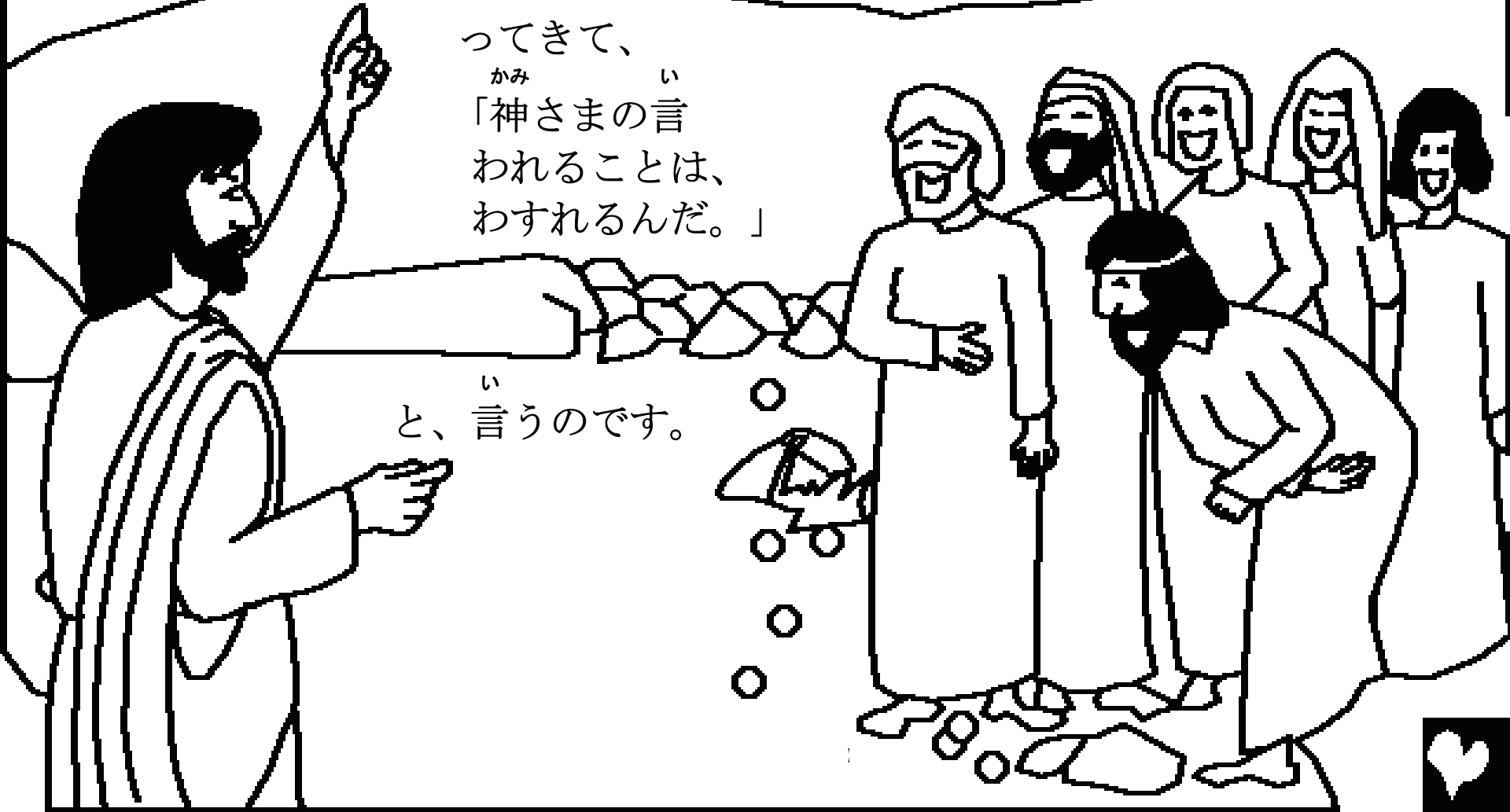
つてきて、

かみ

い

「神さまの言  
われることは、  
わすれるんだ。」

い  
と、言うのです。



かみ しん ひとびと ひと  
また、神さまのことばをきいて、すぐ信じる人々があります。その人たちは、  
いし うえ かみ あい  
ちょうど石ころの上にまかれたタネのよう。でも、神さまを愛しているので、  
ひと  
ほかの人にからかわれたり、つらいことがあったりします。  
そのとたん、かなしいことがおこるのです。





かみ

しん ひとびと

はじめ、よろこんで神さまにしたがおうと信じた人々は、

ひと

おも

そっぽをむき、もうしたがいません。その人たちは、こう思うのです。

かみ

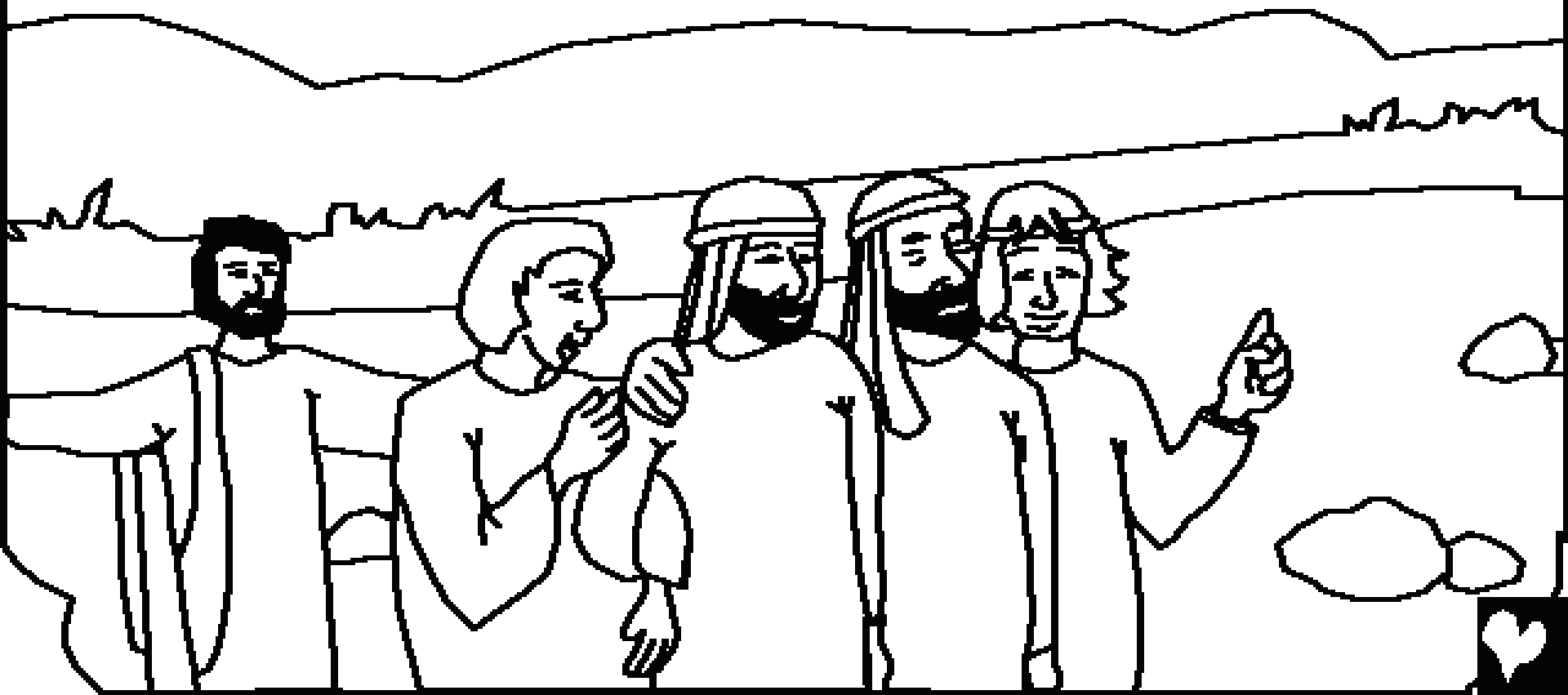
「神さまにしたがうなんて、なんのねうちもないよ。」

かみ

って。かなしいことですね。神さまより、

とも

友だちをよろこばせようとするのですから。



なか  
たとえばなしの中のイバラは、

よ  
ちょうどこの世のしんぱい

かね  
ごとや、お金のこと。そんなこと  
おも ひと  
ばかり、思っている人がいますよ。

ひと かね  
そういう人は、もっとお金も  
うけしようとか、もっとたの  
しいことはなんだろうとか、  
いつもかながえています。  
とてもいそがしいですね。

それで、じぶんたちの  
かみ  
せいかつから、神さまをお  
いだしてしまうのです。



けれども、よい土の上におち、たくさんの実がなったタネは、  
どうでしょうか。それらのタネは、ちょうど、人々のころろの中に入って、  
せいかつを変える神さまのことばのよう。その人々は、神さまにつかえ、  
あがめるようになるのですね。



ひとびと

イエスさまのおはなしをきいている人々は、

かみ

そこをはなれたくありません。みんなは、神さまにしたがい、

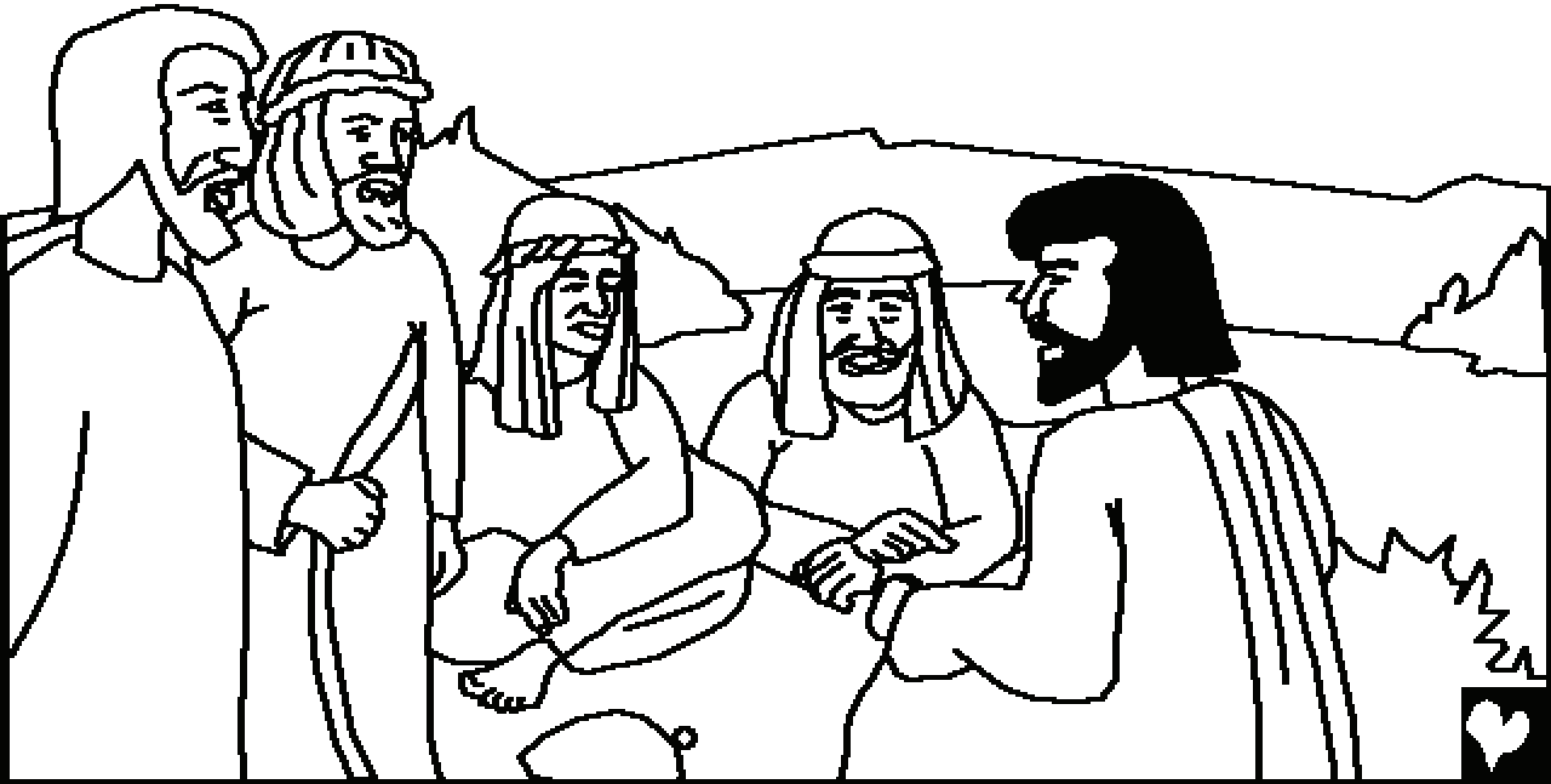
かみ

おも

神さまをよろこばせたいと思ったからです。イエスさまのたとえばなしをきくと、

かみ

どのようにして神さまにしたがっていけばよいのかが、よくわかりますね。



# おひやくしょうさんと、タネ

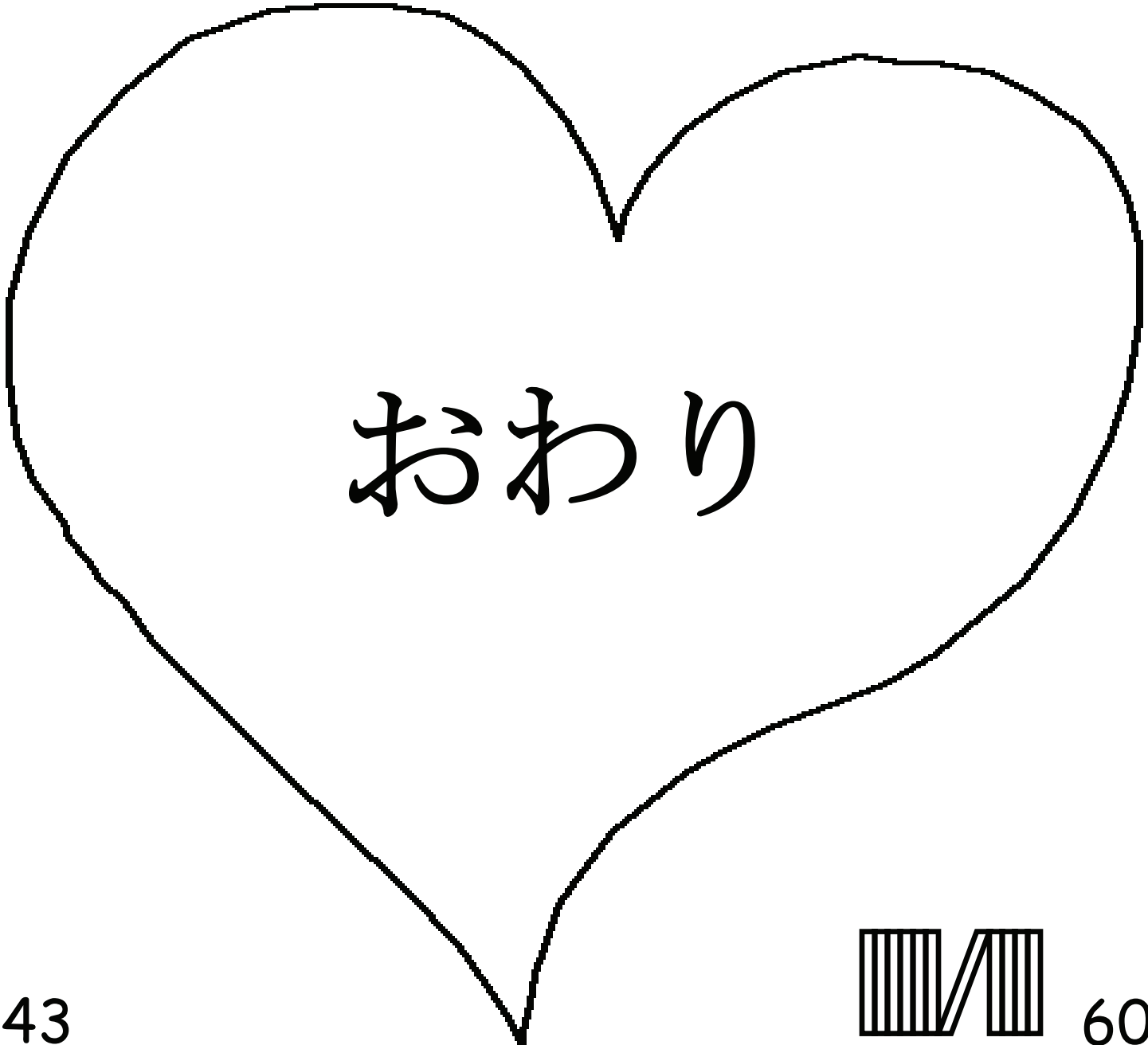
かみ み せいしょ しる  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

ふくいんしょ しょう  
マタイによる福音書 4 章

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130





おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しっていらっしゃいます。それを、神さま  
は、罪つみとよばれています。その罪つみのむくしいは、死しです。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをとも愛あしていらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ  
よ おく つみ じゅうじかじょう な  
の世よに送おくってくださいました。そしてあなたの罪つみのために、十字架じゅうじかじょう上なで亡なくなられたのです。けれども  
それから、イエスさまはよみよがえられ、天国てんごくのいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ  
ましんを信しんじ、ゆるゆるしてくださいますとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるゆるしてくださいます！イエスさま  
いま ところ き なか す  
は、今いま、あなたの所ところへ来きて、あなたのこころの中なかに住すんでくださいます。そして、いつまいつでもイエスさ  
まといっしょに生いきることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだしんと信かみじるなら、神いさまにこう言いってくださいます。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛あいする神かみさま、私わたしは、あなたが神かみさまと信しんじます。あなたは人ひととなり、私わたしたちの罪つみのために亡なくなっ  
てくださいました。そして、よみよみがええって、いま生いきて  
いらっしゃいます。どうか、私わたしのこころの中なかにき来つみて、罪つみをゆるゆるしてくださいます。それで、私わたしは今いま、あたら  
しい命いのちをいただけます。そして、いつか、あなたの所ところへ行いき、いつまいつでもあなたといっしょにいる  
こいができますのです。あなたにこしたいがええますよう、あなたの子ことして生いきることができますよう、たす  
けてくださいます。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

